

11月22-23日、滋賀県甲賀市土山町で行われた研修に参加した。今回の研修は、山内エコクラブの竜王さんと井阪さんに計画していただき、山内の文化や環境について学習した。特に、山内に住むお年寄りを訪ねて行った聞き書きでは、昔の生活から様々な教訓や生きるための知恵を得ることができた。

さて、私が聞き書きをして心に残った話が2つある。「命を大切にすること」、「温故知新で学びを深めること」である。

1つ目の「命を大切にすること」は、生きていく上で忘れてはならないことだ。鍋家さんは、農業に必要なスキルは自然を理解することだと言われた。昔の人は自然に畏敬の念を持ち、不作になっても自然のせいにするのではなく、自然を理解していなかった自分のせいだと考えた。また、昔は食べ物の中から命を教えていたそうだ。食べ物を残すということは命を無駄にすることである。つまり、「食べ物を粗末にすることは命を粗末にすること」ということだ。この



鍋家さんと暖かな囲炉裏

言葉が非常に心に響いた。私は普段から好き嫌いをせず、出されたものは残さず食べるように心がけているが、周りには平気でご飯を残す人もいる。学校で自分の命を大切にすることを教えるのは当然であるが、人間は自然や動物の命をもらって生きているということも同様にしっかりと教えなければならないと感じた。

2つ目の「温故知新で学びを深めること」である。研修2日目の朝には、黒川市場の公民館で5人の女性から子どもの頃の話聞いた。話の中で「昔は勉強をしなくてもよかった」と言われたが、私は、「勉強をする時間がなかった」という意味ではないかと思った。なぜなら、昔は早朝に起きて1時間かけて学校まで歩き、帰ったら農業の手伝いをしていたからだ。川へどじょうを捕りに行ったり家畜の世話をしたりと自給自足の生活を送っていたと聞き、今とは全く学習環境が違うと感じた。そうして生きる力を身に付けていたようだ。今は子どもが食糧を確保する必要はなく、登下校にさほど時間はかからないため、勉強する時間は十分にあると考えられる。しかし昔に比べて便利になった反面、自然に触れたり人と接したりする機会は減ってしまった。そんな環境の中で子どもに「生きる力」をつけさせるにはどうすればよいか考えなければならないと思った。また、学び方について鍋家さんから温故知新だと学んだ。昔を知らないと農業はできないと言われたが、農業に限らずどんな分野でも新しい学びを得ようと思ったらまずは過去の発見や成果を調べる必要がある。私は現在数学の歴史について調べているので、もっと過去の文献を読み、将来の中学数学に生かしていけるように研究を深めていきたい。

以上の2つの話が深く心に残っている。この研修では、文化祭で伝統文化を体験したり、お年寄りから聞き取りを行ったり、多くの人と接する機会があった。お話を伺ったお年寄りの方々は高齢であるのにとっても元気で、昔の話を生き生きと語っていた。私もあのように思い出を楽しく語れるような人生を送りたいと思った。本を読むことでも昔の生活を知ることができるけど、直接顔を見て話を聞くことで、当時の感情を共有することができる気がして、私自身とても楽しく聞かせていただいた。そして、自分が住んでいた地元ではどんな行事があったのか、どんな文化があるのか、私も祖父母に聞いてみようと思った。また、今回の研修では山内エコクラブの活動を紹介していただいた。「夢と生きがいを持てる地域をみんなで創る」という素敵な目標のもと、地域で支えあっている山内はとてもあたたかい場所だと感じた。どのようなふるさと絵図が出来上がるのか楽しみである。またぜひ訪れたい。